

2000－Ⅱ乳用牛評価からの変更事項について

家畜改良センター
技術部 情報分析課

2000－Ⅱ乳用牛評価では、昨年12月のアニマルモデル評価技術検討会で課題とされていた誤差分散の再計算に関する変更が行われる。この結果、信頼幅の値は従来より若干小さく計算されるが、遺伝評価値や種雄牛のランキングが直接影響を受けることはなく、信頼度も今まで通り計算されることから評価精度に変化があるわけではない。遺伝評価値は推定値であるため、新たなデータの追加による評価値の変化は今後とも、統計的に考えられる範囲で起こりうることに注意が必要である。

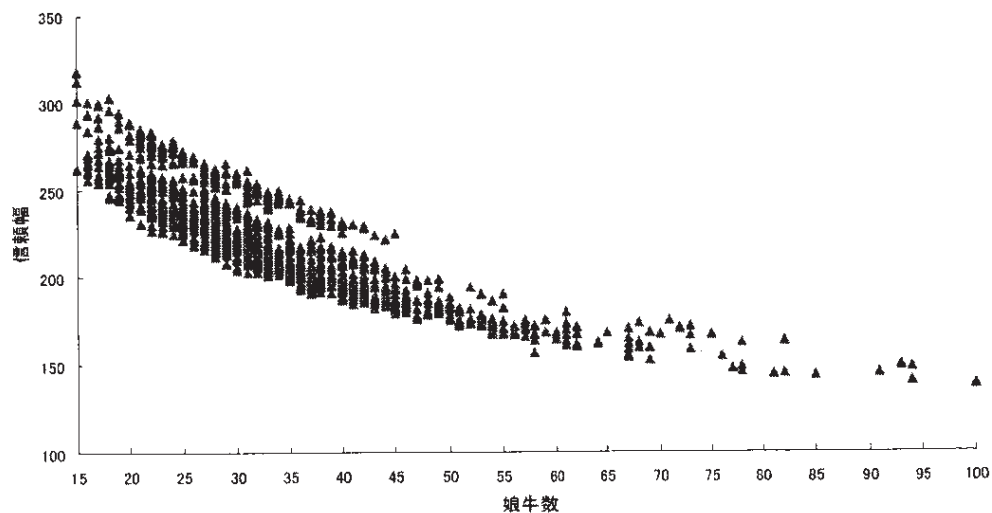
1. 誤差分散の変更

泌乳形質の誤差分散を、直近の全国データを用いて推定しなおしたものに変更する。この変更により誤差分散の大きさが従来より若干小さく算出されるが、信頼度および遺伝評価値そのものには直接影響しない。

表1 誤差分散の再計算結果

形 質	誤 差 分 散
乳 量	377,889.6
乳 脂 肪 量	565.0
無脂固形分量	2,902.1
乳 蛋 白 量	362.3

図1 娘牛数と信頼幅の関係(誤差分散変更後)



誤差分散の変更にともない、拡張記録に対する重み付け係数を再計算したもの（表2）に変更する。しかし新たに用いる係数は2000-I評価で用いたものとほぼ同じ値であり、検証の結果、種雄牛評価値やランキングへの影響もほとんどみられなかった。

[illegible]